令和７年１２月１日
外国語ＷＧ
資料 1

「外国語を学ぶ本質的意義等を踏まえた話題・活動等の在り方」、「小学校・中学校における指導内容の段階的な示し方」について

ワーキンググループにおける検討事項・論点

1．外国語を学ぶ意義

- AI時代に外国語を学ぶ意義の再定義と、外国語の「見方・考え方」の見直し

2．目標・内容の一層の構造化

- 「学びに向かう力・人間性等」の整理等を踏まえた目標の示し方
- 「高次の資質・能力」（「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」）を中心とした内容の一層の構造化

3．発信力強化

（１）グローバル・多文化共生社会の担い手の育成
（外国語で他者とコミュニケーションを図る意欲等の育成）

- 英語を学ぶ動機付けや児童生徒の目標設定の在り方
- 動機付けを強化するための話題・活動の在り方

（２）英語の使い手の育成（英語運用能力の育成）

- 校種間接続の課題等を踏まえた指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方
- 5領域の活動を通した知識及び技能の指導の在り方（語彙や文法の指導を含む）
- 科学的知見を踏まえた学習プロセスを意識した指導の在り方
- 高等学校の科目（特に「論理・表現」）の在り方
- AIを含むデジタル学習基盤の活用の在り方

4．児童生徒の英語力の把握・評価

- 「学びに向かう力・人間性等」の評価の新しい整理を踏まえた評価等の在り方

5．柔軟な教育課程

- 義務教育における調整授業時数制度や高校における科目の柔軟な組み替えや履修の免除を可能とする仕組みを前提とした場合に、考えられる教育課程・学習指導の工夫の在り方

6．指導体制・環境整備等

- AI時代の教師・ALT等の役割の再定義
- 教員の資質（英語力・授業力）向上のための方策と、ALT等との連携の在り方
- 外国語を使う機会の充実の在り方

7．英語運用能力に関する社会全体の課題

- 英語運用能力に関する社会全体の課題と、学校教育において取りうる対応の方向性

8．英語以外の外国語

- 英語以外の外国語の推進方策

※これまでの議論を踏まえて作成したものであり、今後の議論の状況に応じて記載事項以外の論点も検討

学習指導要領の目標・内容の構造化・表形式化イメージと具体化が必要な論点

目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等

見方・考え方

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

内容

	●学年相当	●学年相当	●学年相当
知識及び技能に関する統合的な理解 ・～～～ ・～～～ ・～～～	・～～～ ・～～～ ・～～～	・～～～ ・～～～ ・～～～	・～～～ ・～～～ ・～～～
思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 ・～～～ ・～～～ ・～～～	・～～～ ・～～～ ・～～～	・～～～ ・～～～ ・～～～	・～～～ ・～～～ ・～～～
（内容の取扱）			

目標、「本質的意義」を踏まえた見方・考え方

➡ 「本質的意義」の再整理も含め、第３回までの議論を踏まえた案を暫定としつつ、今後の内容の等を踏まえて見直していく予定
（スライド●～●参照）
※小・中の英語の目標、高校の科目目標の在り方も別途検討

内容　※個別の内容を選択・精選しながら議論

- 「本質的意義」の再整理、見方・考え方、目標を踏まえた話題・活動・教材等の充実の方向性
- 小・中学校の指導内容（話題・活動等）の段階的な示し方

➡ **本日議論**

- 高校の科目の在り方
- 表形式化の具体的な形式
- 高次の資質・能力の在り方

➡ **年内を目途に議論**

（その他の重要事項）

- ５領域の活動を通した知識及び技能の指導の在り方
- 語彙の在り方

➡ **上記の後に議論**

※ その他の検討事項（AI活用の在り方、評価の在り方、柔軟な教育課程の在り方、指導体制・環境整備等）については、「内容」の後に議論予定

１．外国語を学ぶ本質的意義等を踏まえた話題・活動等の在り方

外国語を学ぶ本質的意義等をふまえた話題・活動等の在り方

【現状と課題】

本質的意義の要素等を踏まえた見直し・発信力強化

- 外国語を学ぶ本質的意義の要素やAI時代に英語を学ぶ動機付けを高める観点等を踏まえ、取り扱う話題や活動の例示、教材選定の観点等の記述を見直す必要
- 併せて、英語で伝えたい内容を個々の児童生徒が育むため、AIや学校内外での交流機会を活用しつつ、自分が本当に伝えたいことや自分が生まれ育った国・地域のことを伝える活動の強化が求められている
- 一方、自分の住んでいる地域に関する話題や活動については、学習指導要領や解説において記述が薄く、教科書に取り上げられているケースが少ない

話題等の精選（特に中学校）

- 現行では、取り扱う話題が学年別で示されておらず、様々な難易度のものが混在。特に中学校においては「社会的な話題」として、環境問題や世界情勢、人権問題等が解説に例示されたこともあり、教科書における話題や活動が高度化し、難易度が上がり、授業づくりが難しいとの指摘
  ※中学校の各種調査に共通して、社会的な話題に関する設問に課題
- 今後、「高次の資質・能力」を整理した上で内容を選択・精選していく必要が求められていることも踏まえ、話題や活動についても積極的に選択・精選していく必要

【方向性と具体的論点（案）】

本質的意義の要素等を踏まえた見直し・発信力強化

- 外国語を学ぶ本質的意義の要素やAI時代に英語を学ぶ動機付けを高める観点等を踏まえ、取り扱う話題や活動の例示、教材選定の観点等の記述を見直すべきではないか
- その際、自分のこと、日本のことなどは、現行でも話題や活動として例示されているものの、英語での発信力の強化にまで至っていないことを踏まえ、更に自分の意見を言えるよう、話題や活動の充実を図ってはどうか。
- 自分の住んでいる地域に関する話題や活動については、自分のこと等と同様に、話題や活動の例として明確に位置付けてはどうか

話題等の精選（特に中学校）

- 各学年で取り扱うべき話題の難易度を整理し、各学年相当で示すとともに、身近なものから段階的に抽象的なものを取り扱うよう改善すべきではないか
- 中学校における社会的な話題については、外国語の学習としては難解なものが多く含まれているため、「身近な社会的な話題」（生徒が自分事に感じられ、かつ意見の違いが出るもの）を中心とする方向で検討してはどうか
- その際、英語での発信力の強化につなげるため、発信のための活動においては、身近な社会的な話題までとし、英語で意見を伝え合うことの充実を図ってはどうか

話題の改善イメージ（中学校の例）

現状

取り扱う話題が学年別で示されておらず、様々な難易度のものが混在

中１～中３

日常的な話題

生徒の日々の生活に関わる話題のうち、生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもの
生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なこと

（例）
自分に関すること
- 自分の好きなことや嫌いなこと、趣味、日常的に行っていることや過去の行動などに関する事柄
- 住んでいる場所や部屋の様子、行きたい場所、所有しているもの、好きな動植物や飼っているペット
- １日の日課、週末や長期休暇の出来事や計画、将来の夢
- 学校生活における出来事、学校行事（修学旅行先、部活動）

友達や家族、教師等に関すること
- 家庭生活における出来事、友人や教師が休日を過ごした中で感じたこと、ALTの好きなものや体験（お気に入りの日本食、旅行中に体験したこと）

相手に関すること
- 外国の中学生の学校生活

その他
- 天気予報、交通情報、製品の取扱い方、スポーツクラブのパンフレット

社会的な話題

社会で起こっている出来事や問題に関わる話題
（例）エネルギー問題、環境問題（地球温暖化、自然との共存等）、世界情勢、科学技術、平和問題、人権問題、国際協力、ICTの普及、社会貢献

（その他）

身近な事柄
（例）友達からの招待、電話の留守電機能にあるメッセージ
関心のある事柄
自分が関心をもっていること
（例）趣味や好き嫌い、日記や短い説明
身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること
（例）スポーツ、音楽、映画、テレビ番組、学校行事（文化祭など）、休日の計画、日常の出来事

※現行の解説を基に作成

改善イメージ

各学年で取り扱うべき話題の難易度を整理し、身近なものから段階的に抽象的なものを取り扱うよう改善

中１相当　中２相当　中３相当

聞くこと・読むこと

日常的な話題
（例）友達、家族、学校、地域、店、公共機関　など

身近な社会的な話題
（例）健康的な食生活、スクリーンタイム、皆が過ごしやすい学校づくりなど

社会的な話題
（例）フェイクニュース、人口減少・地方創生、外国人から見える日本、国際協力
※生徒が興味をもちやすいよう、内容を工夫

話すこと・書くこと

日常的な話題
ごく身近な事柄や出来事について
（例）自分のこと、相手と共通して関心をもっていること
身近な話題について
（例）身の回りのこと、相手と共通してもっている話題（学校、地域）

（自分にとって）興味・関心のある話題
※相手が必ずしも興味・関心をもっているとは限らない

身近な社会的な話題

※上記話題の例はたたき台であり、告示や解説の検討の際に具体例について検討

英語を学ぶ動機や発信力を高めるための話題・活動の改善イメージ（中学校の例）

※以下はたたき台であり、告示や解説の検討の際に文言や具体例について別途検討

充実 **自分のこと**

好きなこと、体験したこと、
将来の夢など

身に付けたい英語力についての自己イメージを持つことを促すため、「英語を使ってやってみたいこと」を示してはどうか

（例）自分の好きなスポーツについて聞く
自分の好きな文化に関する記事を読む
英語話者に対して、英語を使ってやってみたいことや自分の将来の夢を話す
ALTに自分の好きなことや嫌いなこと、体験したことについて書いて紹介する

充実 **自分の意見**

校則や学校の課題など
に対する自分の意見

他者の意見や様々な情報を整理しながら自分の意見を形成・発信する活動を促すため、「自分の意見」を示してはどうか

（例）自分の意見を形成するために他者の意見や様々な情報を聞く・読む
皆がより過ごしやすい学校生活にするために、クラスメイトと困っていることや校則について自分の意見を発表
健康的な食生活やスクリーンタイムなどについて、自分の意見を書いて説明する
※子供たちがより自分の意見を形成・発信する活動に取り組みやすいよう、話題に「身近な社会的な話題」を追加

充実 **日本のこと**

日本の文化・歴史・
生活・地理など

日本のことについての理解を深め、発信する活動を促すため、話題・活動の例を充実してはどうか

（例）外国と比較するために日本について調べたり、外国に関連する情報を聞く・読む
ALTに日本の歴史を書いて説明する
海外の児童生徒とお互いの文化を発表し合う

※これまで「教材選定の観点」で示していた(ア)多様な考え方に対する理解、(イ)我が国の文化や英語の背景にある文化、(ウ)国際理解の観点を話題・活動に明示

強化 **地域のこと**

地域の文化・
おすすめの場所・
地域と外国とのつながりなど

児童生徒が自分の住んでいる地域のことを伝える活動を促すため、地域のことも話題・活動の例に位置付けてはどうか

（例）地域の魅力発信に取り組んでいる英語話者のプレゼンを聞く・読む
国内の外国人留学生に地域のおすすめの場所等を書いて紹介する
姉妹都市の生徒に自分の地域と相手の地域とのつながりや違いについて発表する

聞くこと

【参考】現行の中学校の記載（話題の例）

領域別目標

目標	（解説）話題に関する具体例
ア　はっきりと話されれば，**日常的な話題**について，必要な情報を聞き取ることができるようにする。	• この目標での**「日常的な話題」とは，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもので，具体的には，例えば学校行事における係分担の説明や持ち物等の連絡，天気予報，交通情報など**が考えられる
イ　はっきりと話されれば，**日常的な話題**について，話の概要を捉えることができるようにする。	• この目標での**「日常的な話題」とは，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもので，具体的には，例えば最も思い出に残っている学校行事や自分の好きなこと**などが考えられる。 • 例えば**「お気に入りの日本食」**についてＡＬＴが授業で話すのを聞き，話全体の大まかな内容を捉えることができるようにすることなどが考えられる。
ウ　はっきりと話されれば，**社会的な話題**について，短い説明の要点を捉えることができるようにする。	• この目標での**「社会的な話題」とは，社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことで，具体的には例えばエネルギー問題や国際協力など**が考えられる • 例えば「地球温暖化の防止」をテーマとした講演など，一つの話題に沿って話される首尾一貫した内容を最初から最後まで聞き，話し手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉えることができるようにすることが考えられる

言語活動の例

活動	（解説）話題に関する具体例
（ア）**日常的な話題**について，自然な口調で話される英語を聞いて，話し手の意向を正確に把握する活動。	－
（イ）**店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンス**などから，自分が必要とする情報を聞き取る活動。	• **カメラなどの商品のコマーシャル**が題材の場合，最初に聞く際には「どのような機能があるのか知りたい」，次に聞く際には「値段を知りたい」など，聞き手が置かれた状況の設定を行うことなどが考えられる
（ウ）**友達からの招待など，身近な事柄**に関する簡単なメッセージを聞いて，その内容を把握し，適切に応答する活動。	• 例えば，日常生活において，**電話の留守電機能にあるメッセージ**を聞き，相手の伝えたいことを理解した上で，返事をするために電話をかけることがある。その際，相手の依頼などを承諾したり断ったり，内容を確認したり交渉したりしなければならないこともある。あるいは，部屋に入ってきた相手が“It’s hot here.”と言ったことに対し，“I’ve just turned on the air conditioner.”と説明したり，“Shall I open the window?”と提案したり，“Oh, you are hot!”と言いながら窓を開ける動作に移したりすることがある
（エ）**友達や家族，学校生活などの日常的な話題や社会的な話題**に関する会話や説明などを聞いて，概要や要点を把握する活動。また，その内容を英語で説明する活動。	• **「日常的な話題」としては，例えば，ある人物の生い立ちを聞き，そのあらましを把握し，主な出来事をほかの生徒に伝える，修学旅行先を考えるディスカッションを聞き，メモを基に各生徒が述べた場所とその理由をまとめて説明したりする，あるいは，「中学校生活で最も思い出に残っていること」や「中学生全員が部活動に入るべきか」などのテーマについて数人のスピーチを聞き，主な発話内容を整理して話したりする**，といったことが考えられる • **ラジオなどのはっきりと話される英語のニュース**を聞いてその中の重要な情報を聞き取るといった，「社会的な話題」を扱うことも必要

【参考】現行の中学校の記載（話題の例）

領域別目標

目標	（解説）話題に関する具体例
ア　**日常的な話題**について，簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。	• この目標での**「日常的な話題」とは，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもので，具体的には，例えば学校での予定，製品の取扱い方など**である • 例えば，**学校での連絡事項の中から自分が所属する委員会の活動場所を確認することや，取扱い説明書から必要としている説明を読み取ることなど**が考えられる
イ　**日常的な話題**について，簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。	• この目標での**「日常的な話題」とは，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒にとって身近な学校生活や家庭生活などにおけるもので，具体的には，例えば外国の中学生が紹介する学校生活のことやＡＬＴが旅行中に体験したことなど**である
ウ　**社会的な話題**について，簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。	• この目標での**「社会的な話題」とは，「聞くこと」ウと同様，社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことで，具体的には，例えば自然環境問題や平和問題など**が考えられる

言語活動の例

活動	（解説）話題に関する具体例
（ア）書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり，その内容を表現するよう音読したりする活動。	• 声に出して読む必然性のある活動として，読み聞かせやアナウンス，ニュースなどが考えられる。発音・アクセントの正確さとともに，間の取り方等を考えながら，相手に伝えるために読むという活動は効果的である • 対話文やスキット等においては，登場人物らしく強く読んだり，弱く読んだり，声の大きさを変えて読んだり，読む速さを変えたりするなどして，喜び，悲しみ，怒りなどの感情を豊かに表現し合ったりすることも効果的である
（イ）**日常的な話題**について，簡単な表現が用いられている広告やパンフレット，予定表，手紙，電子メール，短い文章などから，自分が必要とする情報を読み取る活動。	• 簡単な語句や短い文で書かれた**スポーツクラブのパンフレット**を複数示し，自分が通うことのできる曜日に自分が体験したいスポーツを実施しているクラブはどれなのかを探させるなどの活動が考えられる
（ウ）簡単な語句や文で書かれた**日常的な話題**に関する短い説明やエッセイ，物語などを読んで概要を把握する活動。	• **諸外国の中学校生活**を紹介している短い文章を読む際に，それぞれの情報の関係を示す接続詞に注目させながら文章の流れを理解するためのキーワードを拾わせ，全体としての内容を数文の英語でまとめさせたりするなどの活動が考えられる。また，**友人や教師が休日を過ごした中で感じたこと**などのエッセイを読む際には，出来事を時系列に沿って整理させ，どんな内容を伝えようとしているのかを絵や簡単な英語で表現するなどの活動が考えられる
（エ）簡単な語句や文で書かれた**社会的な話題**に関する説明などを読んで，イラストや写真，図表なども参考にしながら，要点を把握する活動。また，その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。	• **地球温暖化などの環境問題**に関する説明文を読み，イラストや図表なども参考にしながら筆者の主張を数文でまとめた上で，自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったり，さらにそれを簡潔に書いて表現する活動へと発展させたりすることなども考えられる

【参考】現行の中学校の記載（話題の例）

領域別目標

目標	（解説）話題に関する具体例
ア **関心のある事柄**について，簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。	• この目標では，**「関心のある事柄」として，スポーツ，音楽，映画，テレビ番組，学校行事，休日の計画，日常の出来事など，身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること**を扱うこととしている。
イ **日常的な話題**について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりすることができるようにする。	• この目標での**「日常的な話題」とは，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒自身や家族に関すること，生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なことなど**である
ウ **社会的な話題**に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。	• この目標での**「社会的な話題」**とは，**「聞くこと」ウや「読むこと」ウにおける社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のこと**であり，広く国内外で起こっている事象で，多様な考え方ができるようなものを取り上げる。 • 具体的には，**例えばエネルギー問題や環境問題など**が考えられ，「聞いたり読んだりしたこと」とは，そうした話題に関する教師や生徒の発話，映像や音声の教材，ニュースや新聞記事，図表，ポスター，電子メールなど，様々な音声媒体や文字媒体による情報や考えなどを意味している

言語活動の例

活動	（解説）話題に関する具体例
（ア）**関心のある事柄**について，相手からの質問に対し，その場で適切に応答したり，関連する質問をしたりして，互いに会話を継続する活動。	–
（イ）**日常的な話題**について，伝えようとする内容を整理し，自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。	–
（ウ）**社会的な話題**に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，読み取ったことや感じたこと，考えたことなどを伝えた上で，相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。	• **社会で起こっている事象**について，どのような考えが望ましいのか，自分であればどのような行動をとるか，またその理由を説明したり，逆に相手により詳しい説明を求めたりすることなどが考えられる

【参考】現行の中学校の記載（話題の例）

領域別目標

目標	（解説）話題に関する具体例
ア **関心のある事柄**について，簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。	• この目標における**「関心のある事柄」とは，「話すこと［やり取り］」アと同様，例えば，スポーツ，音楽，映画，テレビ番組，学校行事，休日の計画，日常の出来事など，身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていること**を意味している
イ **日常的な話題**について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。	• この目標で**の「日常的な話題」とは，「話すこと［やり取り］」イと同様，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒自身や家族に関すること，生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なこと**などである
ウ **社会的な話題**に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	• **「話すこと［やり取り］」ウと同様，この目標での「社会的な話題」とは，社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のことであり，広く国内外で起こっている事象で，多様な考え方ができるもの**を取り上げる • 具体的には，**例えば人権問題やＩＣＴの普及など**が考えられ，「聞いたり読んだりしたこと」とは，そうした話題に関する教師や生徒の発話，映像や音声の教材，ニュースや新聞記事，図表，ポスター，電子メールなど，様々な音声媒体や文字媒体による情報や考えなどを意味している

言語活動の例

活動	（解説）話題に関する具体例
（ア）**関心のある事柄**について，その場で考えを整理して口頭で説明する活動。	• **文化祭**を説明する際に，“We have our School Cultural Festival in September.”や“Our School Cultural Festival is held in September.”など，学習した文法事項やその習熟の度合いによって様々な言い方が可能である
（イ）**日常的な話題**について，事実や自分の考え，気持ちなどをまとめ，簡単なスピーチをする活動。	• **学校生活や趣味，週末や長期休暇の出来事や計画などの生徒の身近な暮らしに関わる様々な話題**について，事実や生徒自身の考え，気持ち，大切にしていることなどを，話し手として伝えたい順番や聞き手に分かりやすい展開や構成を考えて，それらをメモにするなどして整理し，英語で「簡単なスピーチ」をする活動を示している
（ウ）**社会的な話題**に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり，自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。	• **環境問題や人権問題などの「社会的な話題」**に関して聞いたり読んだりして得た知識や情報をメモにしたり図式化したりした上で，その内容を要約して話したり，それらに対する自分の考えや気持ちなどを話して伝えたりする，複数の領域を統合して行う 活動を示している

【参考】現行の中学校の記載（話題の例）

領域別目標

目標	（解説）話題に関する具体例
ア **関心のある事柄**について，簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。	• この目標での「関心のある事柄」とは，「話すこと［やり取り］」アと同様，**スポーツ，音楽，映画，テレビ番組，学校行事，休日の計画，日常の出来事など，身の回りのことで生徒の共通の話題となっていること**を意味している。これらの事柄について，例えば**自分が関心をもっていること，趣味や好き嫌い，日記や短い説明など**を書けるようになることを目標としている。
イ **日常的な話題**について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。	• この目標での**「日常的な話題」としては，「話すこと［発表］」イと同様，生徒の日々の生活に関わる話題のうち，生徒自身や家族に関すること，生徒の興味・関心の対象となることや社会生活で必要なことなど**である。 • 具体的には，**例えば，基本的で個人的な情報から始まり，住んでいる場所や部屋の様子，行きたい場所，家族や友人，所有しているもの，好きな動植物や飼っているペット，学校生活や家庭生活における出来事など**が考えられる。
ウ **社会的な話題**に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。	• **「話すこと［発表］」ウと同様，この目標での「社会的な話題」とは，社会で起こっている出来事や問題に関わる話題のこと**であり，広く国内外で起こっている事象で，多様な考え方ができるものを取り上げる。 • 具体的には，**例えば他教科等でも扱われる自然環境，世界情勢，科学技術，平和などの話題**が考えられ，「聞いたり読んだりしたこと」とは，そうした話題に関する教師や生徒の発話，映像や音声の教材，ニュースや新聞記事，図表，ポスター，電子メールなど，様々な音声媒体や文字媒体による情報や考えなどを意味している

言語活動の例

活動	（解説）話題に関する具体例
（ア）**趣味や好き嫌いなど，自分に関する基本的な情報**を語句や文で書く活動。	• 例示した「趣味や好き嫌いなど」のように，**自分が好きなことや嫌いなこと，日常的に行っていることや過去の行動などに関する事柄**について，生徒が自己紹介を行ったり，**学校や家庭での生活，休日の過ごし方など**について話したり，**将来の夢**について語ったりするなどの言語活動を経て，簡単な語句や文を用いてその内容を書く活動に取り組むことが考えられる
（イ）簡単な手紙や電子メールの形で**自分の近況など**を伝える活動。	• ここでは，特に，生徒が関心をもっている身近な話題や生徒の体験などと関連付けて扱うなどして，意欲的に書く機会を増やす工夫を行うことが考えられる。 具体的には，**季節の挨拶状，ホームステイにまつわる手紙，家族や親戚，友達などに自分の近況を伝える手紙，旅行先からの手紙や葉書，ファンレターなどに加え，留守番電話などの伝言を聞いてその返事を電子メールで送ることや，関心のある話題について，新聞の投稿欄などに投稿することなど**がある
（ウ）**日常的な話**題について，簡単な語句や文を用いて，出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。	• ここでの**「日常的な話題」としては，学校行事や部活動，休日の過ごし方など，具体的で関心が高く，想起しやすいもの**を主に設定し，簡単な語句や文を用いて，日記などの形式によって英文を書く機会を増やす工夫を行う。「出来事など」の 説明は，**例えば１日の日課や先週末にしたことなど**が考えられるが，起こった出来事を書く場合は，時間を追って順序よく描写できるような力を付けることをねらいとする
（エ）**社会的な話題**に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，自分の考えや気持ち，その理由などを書く活動。	• ここでの**「社会的な話題」としては，環境問題，世界情勢や平和に関する様々な状況，人権問題，科学技術の発達，自然との共存，社会貢献など**を扱うととも に，関連する他教科等での学習内容を活用することも考えらえる。それらを話題 として実際の生活において必要な場面を想定した言語活動を通して，自分の意見や感想などを深め，「書くこと」に取り組む必要がある

【参考】現行の中学校の記載（活動で扱う題材）

（1）指導計画の作成上の配慮事項

オ　言語活動で扱う題材は，生徒の興味・関心に合ったものとし，国語科や理科，音楽科など，他の教科等で学習したことを活用したり，学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。

（解説）

この配慮事項は，言語活動の題材を取り上げるに当たっては，生徒の発達の段階や知的好奇心を踏まえ，言語活動への積極的参加を促せるものとできるよう工夫する必要があることを述べたものである。自分の考えや気持ちなど，実際に相手に伝えたい内容についてコミュニケーションすることにより，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことが大切である。そのためにも，題材には，他教科等でこれまで学んできた，あるいは現在学んでいることを積極的に活用するなど，カリキュラム・マネジメントの視点から，教科等間で学びのつながりや広がりがあるものとなるよう工夫が求められる。

例えば国語科との連携については，「相手の反応を踏まえながら，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること」や「話題や展開を捉えながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめること」といったことを国語科で学習し，外国語科でのスピーチやグループでの話し合い，読んだことを基にした意見交換などの活動に生かすことが考えられる。

理科であれば，例えば外国語科で太陽光発電に関わる題材を扱う際，理科の「エネルギーとエネルギー資源」で学んだことを背景知識として生かすことができる。また，音楽科との連携については，「我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と，その特徴から生まれる音楽の多様性」について鑑賞を通して学んだことを生かすなどが考えられる。

さらに，学校行事との関連付けを工夫することも，教室内で学ぶことと教室外で行うこととの接点を生み，学習の意味付けと意義付けに貢献するものである。

なお，国語科との関連については，言語能力の向上の観点からのカリキュラム・マネジメントを実現できるよう，「提案や主張など自分の考えを話したり，それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動」や「互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動」，「詩歌や小説などを読み，批評したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動」といった国語科での言語活動を想起させ，外国語科でのスピーチや意見交換などの活動に生かすなど，同じ種類の言語活動を通して指導することも考えられる。

【参考】現行の中学校の記載（教材選定の観点①）

（3）教材選定の観点

イ　英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化，自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし，次の観点に配慮すること。

（ｱ）多様な考え方に対する理解を深めさせ，公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

（ｲ）我が国の文化や，英語の背景にある文化に対する関心を高め，理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（ｳ）広い視野から国際理解を深め，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うのに役立つこと。

（解説）※次ページに続きあり

「日常生活，風俗習慣」とは，家庭や学校，社会における日常の生活や風俗習慣などを示している。学年が進むにつれて，これらのことについての人々の考え方などを含めて取り扱うことになる。英語の学習を通して，人々の生活や風俗習慣の相違に一層の関心をもたせ，文化の多様性に着目させることが必要である。

「物語」は，世界各国に様々なものがあるが，選択に当たっては，生徒の発達の段階や興味・関心に応じたもの，様々な考え方などが含まれているものなどを適切に取り上げることが考えられる。

「地理，歴史」については，世界の様々な地域の様子，自然の景観，歴史上の人物や出来事など，生徒の興味・関心に応じて，学習意欲を起こさせるような題材を選択することが大切である。

「伝統文化」とは，昔から伝えられてきた風習・制度・思想・技術・芸術などを示している。国際社会で活躍する日本人の育成を図る上で，外国の伝統文化について知ることは，幅広い国際的な視野を身に付ける観点から大切なことである。

また同時に，自国の伝統文化について外国の人々に発信できる素養を培うことも必要であり，そのための適切な題材を選択することが求められる。

「自然科学」については，発明や発見などの科学技術に関すること，あるいは自然現象や生物に関することなど，生徒の興味・関心を喚起するような題材を用意することが大切である。

これ以外の分野についても，生徒の発達の段階を考慮しつつ，生徒の興味・関心に応じて適切な題材を選択することが考えられる。中央教育審議会答申においては，「真に思考力，判断力，表現力等を育成するような言語活動の比重が低い現状から，学習指導要領の内容の実現のために言語活動の改善・充実に資する生徒が発信したいと思える題材とする視点が必要である」と提言されている。

このように，教材の選定に当たっては，生徒の発達の段階，興味・関心について十分に配慮しつつ，英語の目標に照らして適切であり，学習段階に応じた言語材料で構成されているような適切な題材を変化をもたせて取り上げるように配慮する必要がある。

【参考】現行の中学校の記載（教材選定の観点②）

（3）教材選定の観点

イ　英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活，風俗習慣，物語，地理，歴史，伝統文化，自然科学などに関するものの中から，生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし，次の観点に配慮すること。

（ｱ）多様な考え方に対する理解を深めさせ，公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

（ｲ）我が国の文化や，英語の背景にある文化に対する関心を高め，理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

（ｳ）広い視野から国際理解を深め，国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うのに役立つこと。

（解説）　※前ページの続き

以下に題材の選択に関する三つの観点が示されている。

（ｱ）（略）広く他の国の人々の考え方などを知ることにより，それらに対して寛容になるとともに，公平に正しく判断する力を養うことにもなる。また，様々な人々を理解することを通して豊かな人間性を育てることにもなる。

題材については，英語を使用している人々をはじめ世界の様々な人々の多様な考え方や行動の仕方について知ることができるようなものを選択することが大切になる。

（ｲ）（略）英語の学習を通して，我が国の文化と，英語の背景にある文化との共通点や相違点を知るようになるとともに，そうしたことに関心をもち，理解を深めようとする態度を育成することが大切である。複数の文化に触れることが，我が国の伝統文化についての理解を深め，文化の多様性に対してより寛容になることに資するとともに，英語によるコミュニケーションの中で我が国の文化を発信することにもつながっていくことが考えられる。そのような観点から適切な題材を選ぶことが必要であることを示したものである。

ここで言う「文化」とは，日本語や英語を用いる人々の日常生活に密着した衣食住に関わる生活文化をはじめ，文学・科学技術・学問・芸術等に関わることなども含む幅広い分野にわたる文化のことである。この場合，生徒の発達の段階にふさわしいものの中から，生徒の興味・関心を踏まえ，特定のものに偏ることなく，文化に対する関心や理解を高めるのに役立つ題材を取り上げる必要がある。

（ｳ）（略）　中央教育審議会答申では，グローバル化が急速に進展する中で，外国語によるコミュニケーション能力は，これまでのように一部の業種や職種だけでなく，生涯にわたる様々な場面で必要とされることを想定し，その能力の向上を課題として掲げている。

そこで，外国の文化や考え方などについて受け身的に学ぶだけでなく，日本の文化や日本人の考え方を積極的に外国の人々に知らせるという観点から，ふさわしい題材の選択が必要になってくる。

題材の選択に当たっては，広い視野から国際理解を深め，国際協調の精神を養うのに役立つもので，生徒の興味・関心を引き出し育てることのできるような適切なものを選択するなどして，正しい理解が図れるように配慮することが大切である。

その際，文化の多様性や価値の多様性に気付かせ，異文化を受容する態度を育てる。さらに，世界の国々の相互依存関係を正しく認識させるなど，生徒に世界の中の日本人であることの自覚を高めるとともに，国際協調の精神を養うように配慮することが大切である。

２．小学校・中学校における指導内容の段階的な示し方

１．小学校外国語活動と外国語の接続

１．現状と課題

※ 前回改訂では、小学校３・４年から音声等に慣れ親しむために「外国語活動」を導入するとともに、５・６年から段階的に文字の「読むこと」「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱うため、「外国語科」を導入

- Ｒ４学習指導要領実施状況調査によると、４技能全てで相当数の児童が通過した問題が多く、3・4年での外国語活動から音声に慣れ親しんできた積み重ねの成果が表れている
- 一方、以下のような課題も顕在化
  - ① 「書くこと」に課題（例：一文を書き写す問題の正答率が学校間で約30～90%の差。教師オンライン質問調査では「児童が興味・関心をもちやすい」、「児童が理解しやすい」と回答した割合がいずれも低い項目は「書くこと」に集中）
  - ② 「読むこと」に課題（例：教師オンライン質問調査では児童が「興味・関心をもちにくい」、「理解しにくい」と回答した割合が他項目に比べて高い）
  - ③ 外国語活動については、国が教材（Let's Try！）を作成し、配布しているが、一部の内容について伝え合う目的や必然性のある場面が設定しにくい単元があるとの指摘

- こうした中、英語を学ぶ意欲が、学年が上がるごとに下がる傾向も出ており、外国語活動（文字の音声に慣れ親しませる段階）から、外国語科（「読むこと」「書くこと」の活動）に円滑に接続できていないとの指摘

２．方向性と具体的論点

- 外国語活動教材Let's Try！を以下の観点から見直してはどうか
  - ➢ より身近で興味を持ち、楽しく活動できる内容を充実
  - ➢ ５・６年の外国語科につながるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した活動を設定
- 小学校段階で確実に身に付けるべき文字については以下の観点から見直してはどうか
  - ➢ 国語科のローマ字入力の体験やローマ字の学習、総合的な学習の時間に付加する「情報の領域（仮称）」のタイピングなどの情報活用能力の育成に資する学習活動との関連を図りながら、外国語活動においても文字に慣れ親しむ活動を大切にする
  - ➢ 外国語活動（音声での慣れ親しみ）から、外国語科（「読むこと」「書くこと」を含む）に円滑に接続できるよう、初期指導の重要性や留意事項を示してはどうか

２．小学校・中学校における接続・連携

１．現状と課題

※ 前回改訂では、「小学校の外国語活動で音声中心で学んだことが、中学校の段階で文字への学習に円滑に接続されていない」「英語の発音と綴りの関係、文構造の学習に課題がある」という小中接続の課題も踏まえ、小学校５・６年に「外国語科」を導入

【データが示す実施状況】

① 小学生への質問調査では、英語を学ぶ意欲は全学年で８割以上
② 中学生への質問調査では、「小学校での英語の授業が役に立った」と回答する割合は改訂前よりも向上
③ 中1の英語が好きではない理由は、「文法が難しい」「単語のつづりや文字を覚えるのが難しい」「英語の文を書くのが難しい」が上位
④ 中学校教師への質問調査では、小学校での指導内容を把握できていない教師が多数

● 小学校から中学校への接続（「読むこと」「書くこと」に慣れ親しませる指導から、つづりや文字を覚えたり、文を書く指導や文法指導）が引き続き課題。そのために重点指導すべき点を教師が必ずしも理解・意識できていない

２．方向性と具体的論点（案）

（１）指導内容の段階的な示し方

● 小・中学校における指導内容が、領域ごとに段階的に高度化するように指導事項を示し、構造化を図ってはどうか
● その際、英語の領域別の目標の要素を「内容」に位置付け、話題や活動の段階的な高度化を学年段階の目安とともにきめ細かに示すべきではないか
● 本改訂においては、指導事項の精選や学年区分の柔軟化が方向性として示されていることを踏まえ、指導事項の増加につながらないよう留意するとともに、学年別に明確に指導事項を分けるのではなく、「〇学年相当」など、柔軟性を残しつつ目安を示すべきではないか
● 段階付けするポイントとしては以下が考えられるのではないか

✓ 話題：取り扱う話題を段階的に高度化する
✓ 活動（特に読むこと・書くこと）：
- 小学校における読むこと・書くことの指導の段階をきめ細かく示す
- 中学校の初期段階において、音声を中心とした活動を重視するとともに、小学校で取り扱った話題や言語材料（語句や表現など）を繰り返し扱うことを示す

小学校・中学校における指導内容の段階的な示し方

（２）重点を置いて指導すべき点の明確化

● 各学校段階で確実に身に付けさせるべき事項と、前学校種からの学びの接続のために重点を置いて指導すべき事項を、より具体的に示すべきではないか

【具体的な検討事項】

✓ 小学校（中学校への接続のための留意事項）：
- 中学校の文法指導につなげるため、文構造の理解を深めること
- 文字を読んだり書いたりできるようにすること

✓ 中学校（小学校からの接続のための留意事項）：
- 中１の初期段階
  - ➢ 小学校では文字と音声に関連性があるということの理解にとどめていることを踏まえ、音声を中心に活動を行い、綴りと関連付けて指導すること
  - ➢ 小学校では音声に十分慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり例となる文を参照しながら書いたりすることまでにとどめていることを踏まえ、文構造を意識しながら書くよう丁寧に指導すること
- ３年間を通じて
  - ➢ 発音と綴りの関係などについて丁寧に指導すること
  - ➢ 小学校における指導との接続に留意し、音声面を大切にしながら「読むこと」、「書くこと」につなげること
    「読むこと」：音声を頼りに、初見の語句や英文を読んで意味を理解すること ※簡単なものから段階的に
    「書くこと」：語句や英文を読むことから、「書くこと」につなげること

（３）学年別目標の在り方

● 指導内容を段階的に示すことに伴い、現行の学習指導要領において各学校に策定が義務付けられている学年別目標の役割を、学習指導要領が担うこととなる。このため、学年別目標の一律の作成義務は無くし、各学校の状況や校種間の接続・連携の観点等から必要な場合に、任意で作成する位置づけとしてはどうか

※ その際、学習評価の在り方は別途検討予定であるが、「内容」をもとに評価規準を作成する方向で検討すべきではないか

※ 中学校と高等学校の接続・連携については、高校の科目の在り方と併せて別途議論。また、語彙の取扱いについても別途議論。

「話題」の段階的な示し方のイメージ（たたき台）

※小中連携の観点から考えられる段階付けを一部たたき台としてイメージ化したもの。

小学校

ポイント：読むこと・書くことの話題を段階的に示す

外国語活動　外国語

※活動との組み合わせで話題の順序性が前後することはありうる

聞くこと

相手のことや身の回りの物
（例）友達、好きな物、色

ごく身近な事柄
（例）日常生活、学校生活

自分のことや相手のこと
（例）好きな物、友達や家族

身近な事柄
（例）日時、時刻、学校生活、地域

読むこと　**話題を段階的に示す**

（音声での慣れ親しみ）

自分のことや相手のこと　**身近な事柄**

話すこと［やり取り］

基本的なやり取りに関する事柄
（例）挨拶、感謝、簡単な指示、依頼

ごく身近な事柄
（例）時刻、曜日、場所

基本的なやり取りに関する事柄
（例）挨拶、指示、依頼

自分ことや相手のこと

自分のことや身の回りの物

身近な事柄

話すこと［発表］

自分のことや身の回りの物

ごく身近な事柄

自分のことや相手のこと

身近な事柄

書くこと　**話題を段階的に示す**

（音声での慣れ親しみ）

自分のことや相手のこと　**身近な事柄**

中学校

ポイント：身近な社会的な話題を追加
中１の初期段階で小学校で扱った話題を繰り返し扱う

聞くこと・読むこと

【中1の初期段階】
小学校で扱った話題を繰り返し扱う

日常的な話題

追加

身近な社会的な話題　**社会的な話題**

話すこと・書くこと

【中1の初期段階】
小学校で扱った話題を繰り返し扱う

日常的な話題
身近な話題
・ごく身近な事柄（自分のこと、相手と共通して関心をもっていること）
・身近な事柄（身の回りのこと、相手と共通してもっている話題）（例）学校、地域
興味関心のある話題
（自分にとって興味関心があるが、相手が必ずしも興味関心をもっているとは限らない）

追加　**身近な社会的な話題**
※聞いたり読んだりしたことを基に、書いたりすることを含む

3学年相当　4学年相当　5学年相当　6学年相当　1学年相当　2学年相当　3学年相当

「読むこと」・「書くこと」の段階的な示し方のイメージ（たたき台）

※小学校から中学校への接続（「読むこと」「書くこと」に慣れ親しませる指導から、つづりや文字を覚えたり、文を書く指導や文法指導）が引き続き課題である点も踏まえ、小中連携の観点から考えられる段階付けを一部たたき台としてイメージ化したもの。
※聞くこと・話すことについても構造化の中で整理予定。

小学校　　**中学校**

外国語活動　　**外国語**

聞くこと

文字の読み方が発音されるのを聞いて、分かるように識別する

読むこと

文字の形を認識し、名称の読みができる

音声と語句や表現を結びつけたり、音声と文字の関係に慣れ親しんだりする

簡単な文から、語句や表現を識別して情報を得る

書くこと

文字を一文字ずつ丁寧に書く

音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句を書き写す

音声で十分に慣れ親しんだ基本的な表現を書き写す

例となる語句や表現を参考に、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を選んで書く

読むこと・書くこと

【中1の初期段階】
・音声を中心に活動を行い、綴りと関連付けて指導する
・文構造を意識しながら書くよう、丁寧な指導を行う
　※徐々に自分で考えて書くことができるようにする

【３年間を通じて】
・発音と綴りの関係について指導を行う
・小学校における指導との接続に留意し、音声面を大切にしながら「読むこと」、「書くこと」につなげる
　▶音声を頼りに、初見の語句や英文を読んで意味を理解する
　　※簡単なものから段階的に
　▶ 語句や英文を読むことから、「書くこと」につなげる

３学年相当　4学年相当　５学年相当　6学年相当　1学年相当　2学年相当　3学年相当

（参考）AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理、外国語の「見方・考え方」・「目標」

AI時代に外国語を必修とする「本質的意義」の再整理（Ver. 3）

－自らの人生を舵取りできる、多様な他者と協働できる資質・能力への貢献の観点から－

1．言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

- **異なる言語・文化への理解を促す**
  - 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
  - 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
    - ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性
- **母語や自国の文化のメタ認知を促す**
  - 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
  - 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
  - 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される
- **コミュニケーションへの深い理解を促す**
  - 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
    - ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
    - ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
  - 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
  - ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り 等）
    - ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2．自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること

- **外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される**
  - 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
  - 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
  - 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
    - ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性
- **人間関係の質・量が豊かになり、得られる情報も増える**
  - 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
  - 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
  - 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も

※現在のAI技術を前提とした場合ではあるが、AIにより手軽に翻訳・通訳が可能となる中であっても、出力の正確性・適切性を批判的に検討したり、ツールの力も使いつつも、リアルなコミュニケーションを行ったりするためには相応の英語力が必要という視点や、外国語によるコミュニケーションのためにAI技術を効果的に活用する力が必要という視点もある

※これらは外国語を学校教育で必修とすることの意義を卒業後も継続的に学習した場合も想定しながら整理したものであり、これらの全てが、全ての児童生徒において、初等中等教育の過程で高いレベルで発現すると考えているものではない

※AI技術が今後も予想を超える速さで進歩することを踏まえると、AIに代替されるべきではない、人間に残したい部分は何かを重視する必要（下線部分）

よりよい社会
（社会のウェルビーイング）

- 多様性の包摂、国内外の多様な他者との共生・共創
- グローバルな視点・情報を駆使した価値創造・課題解決
- 持続可能な民主主義・平和な社会の構築

幸福な人生
（個人のウェルビーイング）

- 国内外の多様な他者と直に意思疎通できる安心感・自信、豊かな人間関係
- 言葉の壁や国境を越えて自らの人生を舵取り（進学・留学・就職）
- 思考の多様性・柔軟性、価値観の再構築

外国語の新たな「見方・考え方」のイメージ（案）　（Ver. 3）

現状

見方　外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、
社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、
考え方　コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること（101字）

（参考：解説）

見方

外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉えるとは、**外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要**であることを示している。

考え方

また、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、 再構築することとは、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、課題を見いだして解決策を考えたり、身に付けた思考力を発揮させたりすることであり、「外国語で表現し伝え合う」ためには、適切な言語材料を活用し、思考・判断して情報を整理するとともに、**自分の考えなどを形成、再構築することが重要**であることを示している。

外国語によるコミュニケーションの一連の過程を通して、このような「見方・ 考え方」を働かせながら、自分の思いや考えを表現することなどを通じて、生徒の発達の段階に応じて「見方・考え方」を豊かにすることが重要である。この「見方・考え方」を確かで豊かなものとすることで、学ぶことの意味と自分の生活、人生や社会、世界の在り方を主体的に結び付ける学びが実現され、学校で学ぶ内容が、生きて働く力として育まれることになる。さらに、こうした学びの過程が外国語教育の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる。その鍵となるものが、教科等の特質に応じた「見方・考え方」である。

（参考）第３回提示イメージ
「外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、自分の考え等を形成するとともに表現等を工夫して発信し、多様な他者との相互理解を図ること」

改善イメージ

外国語及び外国語によるコミュニケーションを
見方　**文化の違いや社会及び相手との関わり**に着目して捉え、
考え方　**他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図る**こと
（97字）

※解説は前ページの「本質的な意義」を踏まえて作成
※今後の「目標」・「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

（参考）「本質的意義」の再整理を踏まえた「見方・考え方」と「目標」の検討の方向性（たたき台）

「本質的意義」の要素については、「見方・考え方」と「目標」のみならず、本質的意義の要素は引き続き「内容」等の検討においても各趣旨を反映していくこととしてはどうか。

1．言葉、文化、コミュニケーションへの深い理解を育むこと

● 異なる言語・文化への理解を促す

- 自らと異なる他者の言語や文化等との接触・理解・共感・受容
  ⇒ **見方・考え方**と**目標（学びに向かう力・人間性等）**を中心に反映してはどうか
- 言語習得の困難の経験による外国人や日本語学習者の立場・心情の理解
  ⇒ 上記の理解が促されるよう、**内容（話題や活動）**を工夫してはどうか
  ➡ 以上が相まって、多様な主張や価値観への寛容性を生み、多様性の包摂や多文化共生に対する理解を促す可能性

● 母語や自国の文化のメタ認知を促す

- 外国語と対比されることにより、母語の特徴や良さの認知に繋がる
  ⇒ **見方・考え方**と**内容（話題や活動）**を中心に反映してはどうか
- 外国の文化と対比されることにより、自国の文化への理解が深まる
  ⇒ **見方・考え方**と**内容（話題や活動）**を中心に反映してはどうか
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される
  ⇒ 動機付けが促されるよう、**内容（話題や活動）**を検討してはどうか

● コミュニケーションへの深い理解を促す ⇒全体として**見方・考え方**に反映してはどうか

- 言語や文化のメタ認知やコミュニケーション等の経験を通じた相手意識の向上
  ・相手の言葉や意図の受け止め方（聞く・読む）
  ・相手や相手の文化への配慮、コミュニケーションの目的、場面や状況等に応じた表現、自分の言葉の分かりやすさ（「やさしい日本語」にも繋がる）（話す・書く）
  ⇒ **目標（思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力・人間性等）**を中心に反映してはどうか
- 伝わらないもどかしさや失敗を乗り越えるレジリエンスや伝わることによる自己肯定感等の高まり、それらを行き来する経験
  ⇒ **目標（学びに向かう力・人間性等）**を中心に反映してはどうか
- ノンバーバル・コミュニケーションの重要性の理解や表現方法の工夫（アイコンタクト、間の取り方、身振り・手振り 等）
  ⇒ **内容（言語の働き、言語活動の解説等）**を中心に反映してはどうか
  ➡ 以上が相まって、翻訳ツール等によるやり取りを超えた、生身の身体を有する人間同士のリアルなコミュニケーションへの関心・意欲を促す可能性

2．自分の考えが磨かれて思考が深まる、人間関係が豊かになること

● 外国語を介して、自分の考え・意見の形成・整理が促進される

- 外国語を通じて流通する多様な主張や価値観、感性への接触・受容
  ⇒ **見方・考え方**と**目標（思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力・人間性等）**を中心に反映してはどうか
- 外国語で対話・協働するために、普段から自分の考え・意見を整理したり、外国語ならではの論理展開で伝える意識が向上する
  ⇒ **見方・考え方**と**目標（思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力・人間性等）**を中心に反映してはどうか
- 外国人に伝えるため、自国の歴史・文化を学ぶ動機付けが促される（再掲）
  ⇒ 動機付けが促されるよう、**内容（話題や活動）**を検討してはどうか
  ➡ アウトプットを意識した効果的インプットや論理的思考力の伸長を促す可能性

● 人間関係の質・量が豊かになり、得られる情報も増える

⇒全体として**見方・考え方によって導かれるもの**として整理してはどうか

- 世界中の様々な人々と直接つながり、信頼関係の構築が可能となる
- 人間同士のリアルなコミュニケーションにより、翻訳やAIを介する場合と比べて得られる情報が格段に広がり、多面的視野に繋がる
- 異なる言語でのコミュニケーションを通じて新たな自分を発見できたり、より広い視野から自分の好き・得意を考えたり、複言語・複文化の強みを生かして将来の選択肢が広がる可能性も
  （⇒ 児童生徒がこれらを実感できるように**内容（話題や活動）**を検討してはどうか）

目標における柱書のイメージ（Ver.2）

- 学校種の**段階的な高度化は３つの資質・能力の目標において具体的に示す**こととし、**柱書においては、**小学校の外国語活動と小中高の外国語科との違いや各校種の**共通点と相違点を踏まえて端的に記載してはどうか**
- **学習過程の書きぶり**については、**今回の議論の対象とはせず、5領域の活動を通した指導の在り方、活動と練習等との関係、英語使用と母語使用の関係等も含め、改めて議論してはどうか**

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(参考)　●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、【P】聞くこと、話すことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

見方・考え方（暫定案）　【P】外国語及び外国語によるコミュニケーションを文化の違いや社会及び相手との関わりに着目して捉え、他者の考えを受け止めるとともに、表現等を工夫して自分の考え等を発信し、多様な他者との相互理解を図ること

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

目標における「知識及び技能」のイメージ（案）

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

【第３回の案に対する御意見】

・小・外国語：小学校では音声への慣れ親しみを中心としていることから「読むこと・書くことに慣れ親しむ」点は残すべきではないか
　　小学校では音声等の違いに気づき、中学校では理解するという段階の違いを示すべきではないか

・中高：「文構造」が加わることにより文法重視の印象が高まることを懸念。あくまで手続き的な知識を習得して欲しい趣旨を示せないか

・高校：知識の詰め込みへの揺り戻しを避け、外国語を使う意味を批判的に捉えていく姿勢を維持するためにも、「目的や場面、状況などに応じて」は残すべきではないか

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

（※以下は第３回で提示した案であり、第３回での御意見も踏まえて引き続き検討）

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどを理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文構造、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	外国語の音声や語彙、表現、文構造、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

目標における「思考力、判断力、表現力等」のイメージ（案）

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

【第３回の案に対する御意見】

・小・外国語：小→中の読み書きの段階的な発達による差は残すべきではないか
・中高：「様々な話題」や「幅広い話題」は具体性が必要
・高：「適切に活用できる」に関し、既にできることをさらに円滑にする等の改善の趣旨を示せないか

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

（※以下は第３回で提示した案であり、第３回での御意見も踏まえて引き続き検討）

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

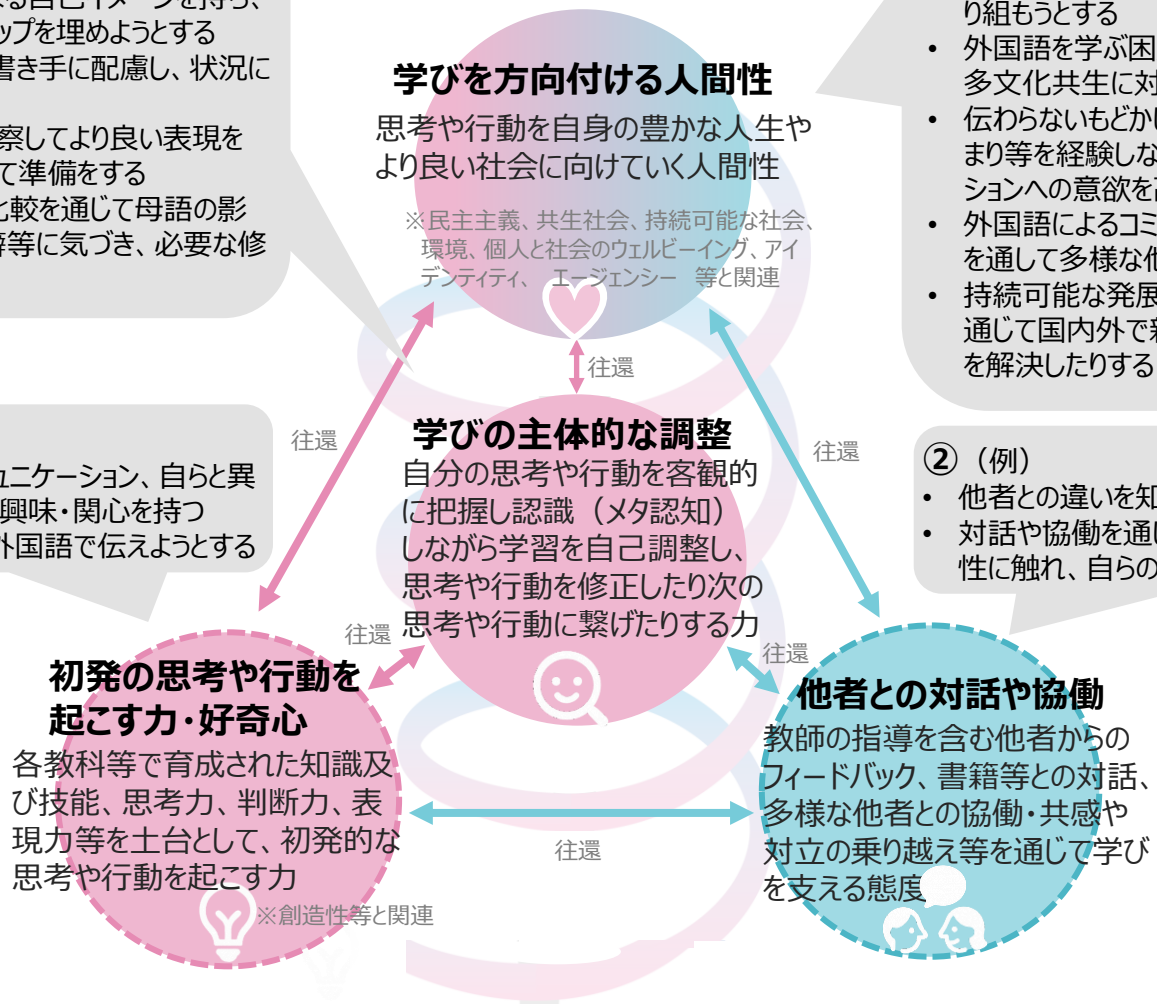
※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

外国語における「学びに向かう力・人間性等」の４要素の例（Ver.2）

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む

③（例）
- 外国語を身に付けることによる自己イメージを持ち、自己イメージと現実とのギャップを埋めようとする
- 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮し、状況に応じて修正する
- 自らのコミュニケーションを省察してより良い表現を考える等、次の機会に向けて準備をする
- 外国語や外国の文化との比較を通じて母語の影響を受けた表現や思考の癖等に気づき、必要な修正に繋げる

④（例）
- 目的意識をもって外国語の学習に継続して取り組もうとする
- 外国語を学ぶ困難の経験を多様性の包摂や多文化共生に対する理解に繋げる
- 伝わらないもどかしさや伝わる自己肯定感の高まり等を経験しながら人間同士のコミュニケーションへの意欲を高める
- 外国語によるコミュニケーションを継続し、対話を通して多様な他者と信頼関係を構築する
- 持続可能な発展に向けて、外国語の使用を通じて国内外で新たな価値を創造したり課題を解決したりする



①（例）
- 外国語や外国語によるコミュニケーション、自らと異なる他者の文化等に対して興味・関心を持つ
- 自分の考え・意見を持ち、外国語で伝えようとする

②（例）
- 他者との違いを知り、相互理解を深める
- 対話や協働を通じて、多様な主張や価値観、感性に触れ、自らの考えを広げる・深める

※上記例は今後の議論を踏まえて見直していく予定

学びに向かう力、人間性の高まり

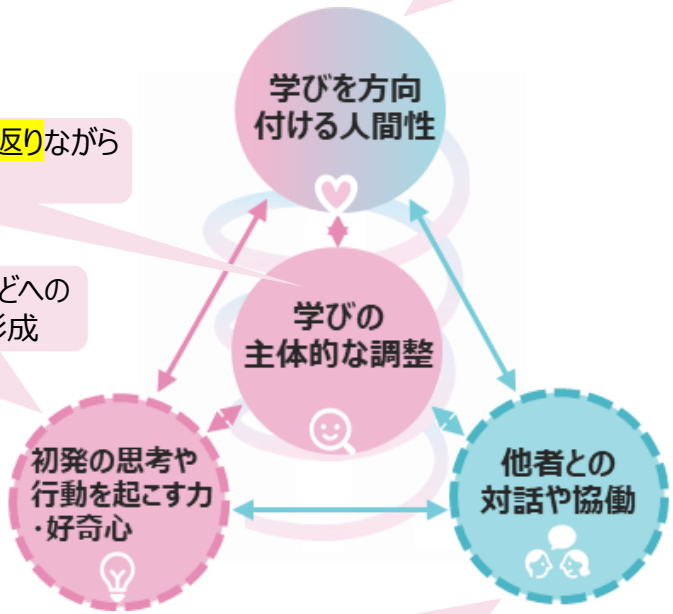
※「初発の思考や行動を起こす力」と、「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、粘り強く継続的に思考・行動する経験が繰り返され、「学びに向かう力・人間性等」が育まれる

外国語における「学びに向かう力・人間性等」の整理（Ver.2）

④他者との相互理解を深めようとする心情

③自己イメージを持ち、自らを振り返りながら学習を調整する態度

①外国語によるコミュニケーションなどへの興味・関心、伝えたい考え等の形成



②他者との対話・協働を通して考えを広げ・深めようとする態度

２．当該教科等の学習で育みたい情意・感性

④　主体的に他者との相互理解を深めようとする心情

１．当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

①　外国語によるコミュニケーションなどへの興味・関心、伝えたい考え等の形成

②　他者との対話・協働を通して考えを広げ・深めようとする態度

③　自己イメージを持ち、自らを振り返りながら学習を調整する態度

１と２を踏まえ、

【中学校外国語でのイメージ】
外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち（①）、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに（②）、自らの学習を調整して（③）、他者との相互理解を深めようとする態度（④）を養う。

（参考）第３回提示イメージ
「外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち（①）、学習を自ら調整し（③）、対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、他者との相互理解を深めようとする態度（①・②・④）を養う。」

※解説は前ページや３ページの「本質的な意義」も踏まえて作成
※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

目標における「学びに向かう力、人間性等」のイメージ（Ver.2）

現状

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

▼

改善イメージ

小学校　外国語活動	小学校　外国語	中学校	高等学校
外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。	外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

（参考）学校種毎の目標の示し方

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討

小学校・外国語活動

現状

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

思考力、判断力、表現力等

身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

改善イメージ

外国語によるコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を、【P】聞くこと、話すことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。

思考力、判断力、表現力等

身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語を用いてコミュニケーションを図ることなどに興味・関心を持ち、粘り強く自分の考えや気持ちを伝えるとともに、相手を理解しようとする態度を養う。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

小学校・外国語

現状

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

改善イメージ

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどを理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして伝え合うことができる基礎的な力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を図ろうとする態度を養う。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

中学校

現状

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

改善イメージ

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、文構造、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深めようとする態度を養う。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

高等学校

現状

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

学びに向かう力、人間性等

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

改善イメージ

外国語によるコミュニケーションを図る資質・能力を、【P】聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能

外国語の音声や語彙、表現、文構造、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

思考力、判断力、表現力等

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、幅広い話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う

学びに向かう力、人間性等

外国語によるコミュニケーションなどに興味・関心を持ち、他者との対話・協働を通して考えを広げたり深めたりするとともに、自らの学習を調整して、他者との相互理解を深め、外国語の習得に継続して取り組もうとする態度を養う。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

（参考）英語運用能力に関する社会全体の課題と学校教育における対応の方向性

英語運用能力に関する社会全体の課題と学校教育における対応の方向（Ver.2）

社会の期待・認識 ⟷ **ギャップを少しでも埋めるためにできることは？** ⟷ **学校で改善できること**

10年も習ったのに
英語が話せるようにならない…

コミュニケーション重視の授業
改善を行ってきているが…

ギャップが生まれる背景

授業時間の制約

- **必要な学習時間は到達したい水準で異なり、学校教育だけでは時間に限界**
  （英語話者が日本語の一般的な専門能力を身につけるために必要な授業時間数は2,200時間※。日本の小中高の外国語の授業時間は600～1,000時間程度。）

卒業後の学習状況

- **高校卒業後の伸びが少なく、学習を継続していても具体的な目標設定や学習方略がない場合が多い**
  （英語の学び方がわからず、自分の目標との関係で習得すべき語彙や、どのような学習がどれだけ必要なのかが意識されていない。関連して、大学教育を通じても外国語を使う力が身に付いたと実感できていないとの調査結果も。）

社会環境・社会の認識

- **英語を頻繁に使わざるを得ない環境がなく、社会全体で切迫感や学習動機が弱い**
  （学校で学んだことを学校外で自然に使う機会はほとんどない社会的環境が言語習得の観点で不利であるとの共通認識が必要。AIの発展により、学習動機は更に弱まる可能性。）
- **「英語が話せない」原因は「英語で伝える内容が十分整理されていない」等の場合も**
  （自分の意見が母語で十分言語化されていない、国際交流で必須となる自分の国や地域に関する発信型インプットが少ない、自分の考えを伝えるのが苦手）
- **学校英語＝受験英語＝使えない英語との社会の認識**
  （コミュニケーション重視の授業改善を図ってきており、大学入試も変わってきているが、効果的な指導法がわからないなど更なる改善の余地。）

学校教育での対応の方向性（案）

- **目的に応じて多様な到達水準があることや授業時間の限界を踏まえた上で、身に付けたい英語力についての自己イメージを持つことを促してはどうか**
  （例：英語を学ぶ多様な意義の再整理、児童生徒が英語を身に付けたい程度や英語を使用して取り組みたいことについて自己イメージを持つことを意識した活動の充実（キャリア教育との連携を含む）　等）
- **自律的学習者を育てる方向で、授業デザイン・指導方法の改善を図ってはどうか**
  （例：心理的安全性が確保された授業・学校づくり、AIも活用した「恥ずかしがらない」練習量の大幅な増加、AIを活用した児童生徒に応じた教材作成、第二言語習得や学習科学の知見の活用、家庭学習との効果的な連携、継続学習を可能とする学習方略　等）
- **AI時代に英語を学ぶ動機付けを高める機会を授業内外で多層的に充実する観点から、先行事例の成果を共有し、各地方における取組を積極的に推進してはどうか**
  （例：教師・ALT等の連携促進、国内外の英語を使う人との交流、英語キャンプ、海外校との交流、英語での探究、海外留学　等）
  ※教育委員会と首長部局との連携を含む
- **英語で伝えたい内容を個々の児童生徒が育む活動を充実してはどうか**
  （例：AIや学校内外での交流機会を活用しつつ、自分が本当に伝えたいことや自分が生まれ育った国・地域のことを伝える活動の強化、英語に限らない教育課程全体で自分の意見を根拠に基づいて説明する活動の徹底　等）

※ U.S. Department of STATE, FOREIGN SERVICE INSTITUTEのHP（Foreign Language Training - United States Department of State）
なお、英語を母語とする子供は４歳（≒17,520時間）までに基本的な文法知識を習得すると言われている。
Brown, S., & Larson-Hall, J. (2012). *Second language acquisition myths: Applying second language research to classroom teaching*. University of Michigan Press ELT.
中田達也. (2023). 最新の第二言語習得研究に基づく 究極の英語学習法. KADOKAWA.

参考資料・データ

前回改訂における主な改善事項

小３～４年で外国語活動、５～６年での教科化、中学校も授業を英語で実施、高校卒業時の習得単語レベル4000～5000程度に

CEFR※

B 2（英検準１級等）

B 1（英検２級等）

A 2（英検準２級等）

A 1（英検３級等）

旧学習指導要領（H20･21改訂）

・学年が上がるにつれて意欲に課題
・学校種間の接続が不十分

高等学校

英検準2級程度以上の生徒
40.2%（目標50%）*H30

・学習意欲、発信力に課題
・言語活動が十分でない

中学校

年間140単位時間（週4コマ程度）

英検3級程度以上の生徒
42.6%（目標50%）*H30

・小学校の学習経験が十分に生かしきれていない
・言語活動が十分でない

小学校

年間35単位時間（週1コマ程度）
活動

・音声を中心に英語に慣れ親しんでいる
・中学校入学時の学習意欲が向上

高校卒業レベル
旧: 3,000語程度
新: 4,000 ～ 5,000語程度

高等学校で
旧: 1,800語程度
新: 1,800 ～ 2,500語程度

中学校で
旧:1,200語程度
新:1,600 ～ 1,800語程度

小学校で
新: 600 ～ 700語程度

学習指導要領（H29･30改訂）

小学校2020（令和2）年度、中学校2021（令和3)年度から全面実施、
高等学校2022年度（令和4年度)入学者より学年進行で実施

小・中・高等学校を通じた5つの領域別（「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り・発表]」「書くこと」）の言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成

高等学校

・**5領域を総合的に扱う科目**群（英語コミュニケーションⅠ,Ⅱ,Ⅲ）、ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄやﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ等を通して**発信力を高める科目**群（論理・表現Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ）を設定
・授業は外国語で行うことを基本（前回改訂より）

中学校

年間140単位時間（週4コマ程度）

・外国語で**自分自身の考えや気持ちなどを伝え合う対話的な活動**を重視
・具体的な課題を設定するなどして、学習した語彙、表現などを**実際に活用する言語活動を充実**
・**授業は外国語**で行うことを基本

小学校

5･6年（教科） 年間70単位時間（**週2コマ**程度）

・音声に十分慣れ親しんだ上で、段階的に「読むこと」「書くこと」を加える
・指導の系統性を確保

（15分程度の短時間学習の活用等を含めた弾力的な時間割編成も可能）

3･4年（活動） 年間35単位時間（**週1コマ**程度）

・「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」を中心
・外国語に慣れ親しませ、学習への動機付けを高める

改善のためのPDCAサイクル
高校生のための学びの基礎診断
【2019年度～】

改善のためのPDCAサイクル
全国学力・学習状況調査
※「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」に関する調査を実施
【2019年度～】

※CEFR：欧州評議会（Council of Europe）が示す、外国語の学習や教授等のためのヨーロッパ共通参照枠を言う。英検との対照は日本英語検定協会が公表するデータによる。

4技能全てで相当数の児童ができている設問が多い

技能別の各問題通過率

相当数の児童ができている問題が多く、特に「聞くこと」については、小3・小4での外国語活動から音声に慣れ親しんできた積み重ねの成果が表れている。

「聞くこと」 5問中4問

問題番号	評価の観点	通過率
2	知・技	**85.8%**
3(1)	知・技	**88.7%**
3(2)	知・技	77.7%
4	思・判・表	**89.1%**
5	思・判・表	**85.8%**

「読むこと」 10問中9問

問題番号	評価の観点	通過率
1(1)	知・技	**96.3%**
1(2)	知・技	**95.1%**
1(3)	知・技	**97.6%**
6(1)	知・技	**87.5%**
6(2)	知・技	**83.9%**
7(1)	思・判・表	**84.4%**
7(2)	知・技	**86.6%**
8(1)	知・技	**82.0%**
8(2)	知・技	**84.3%**
9	思・判・表	79.4%

「書くこと」 4問中3問

問題番号	評価の観点	通過率
10	知・技	**93.2%**
11(1)	知・技	**87.2%**
11(2)	知・技	**99.0%**
11(3)	思・判・表	79.5%

「話すこと」 5問中4問

問題番号	評価の観点	通過率
12(1)	知・技	**100.0%**
12(2)	知・技	**94.7%**
12(3)	知・技	**98.6%**
12(4)	思・判・表	**85.6%**
13	知・技 思・判・表	64.0% 64.7%

「聞くこと」の問題例

先生にインタビューをする設定の中で、尋ねるべき3つの事柄のうち、もう1人が先にどの2つの事柄を尋ねているかを把握し、そのあとに自分が尋ねるべき1つの事柄を選ぶ問題

4 （放送問題）

あなたは、教室にマリア先生のしょうかいコーナーを作るために、マリア先生にケンタさんとインタビューをします。あなたたちが聞きたいことは下の【メモ】に書いてあります。

あなたより先にケンタさんがマリア先生に質問をします。その会話を一度聞いてみましょう。

マリア先生　ケンタ

【メモ】

マリア先生にインタビュー
・好きな教科
・好きな食べ物
・行きたい国

ケンタ

（問題）

次は、あなたがマリア先生に質問をする番です。【メモ】に書かれていることを知るために、あなたはマリア先生にどんな質問をしますか。これから放送される1から3の質問の中から1つ選び、その数字を□の中に書きましょう。

□ (7)

この後ケンタさんとマリア先生の会話と質問を、もう一度放送します。

【ケンタさんとマリア先生の会話】

ケンタ　：Hello, Maria sensei. We have some questions. OK?
マリア先生：Sure.
ケンタ　：I like sports. I like P.E.. What subject do you like?
マリア先生：I like science.
ケンタ　：Me, too. I want to go to India. Where do you want to go?
マリア先生：I want to go to Brazil.
ケンタ　：Brazil? Why?
マリア先生：I like soccer. I want to watch soccer games in Brazil.
ケンタ　：Oh, nice. Thank you.

【問題】

1 What sport do you like?
2 Do you like music?
3 What food do you like?

通過率：89.1%

- 日常生活に関する会話を聞いて、目的を達成するために足りない情報が何かを理解することができている
- 対話を聞いて、簡単な語句や基本的な表現を聞き取った上で、どのような事柄が話されているかを把握できている

（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査

小学校

●「書くこと」（一文を書き写す問題）について、学校間で正答率にばらつきが見られる
●「読むこと」「書くこと」について、指導に難しさを感じている教師が少なからずいることがうかがえる

【書くこと】（一文を書き写す問題）

- **学校間で正答率の割合にばらつき**が見られる。
  （学校によって３割程度～９割超の開き）
- **英語の一文を書き写すことに課題のある児童は、他の領域でも困難さを抱えている**ことが推察される。
  （正答群は、準正答群及び誤答群と比べて「聞くこと」「読むこと」の問題においても正答率が高い）

  ※課題のある児童は、アルファベットの文字を視覚的に認識できていないこと、アルファベットの文字の読み方と文字が一致していないこと、アルファベットの文字を書き慣れていないこと、単語や文を書く際の表記方法が意識されていないことなどが推察される。
- **教師がどう指導すべきか十分に理解していないことが推察**される。
  （教師オンライン質問調査で、「児童が興味・関心をもちやすい」、「児童が理解しやすい」という回答の割合がいずれも低い質問は「書くこと」に集中）

  ※「書くこと」の質問項目で「児童が興味・関心をもちやすい」、「児童が理解しやすい」と回答した割合はいずれも６割程度。

【読むこと】

- **「読むこと」の指導について難しさを感じている教師が少なからずいる**ことがうかがえる。
  （教師オンライン質問調査で、「日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどを見て、自分が必要とする情報を得ること」（読むこと）については、「児童が興味・関心をもちやすい」と回答した割合は77.6%である一方、「児童が理解しやすい」は62.3%と、15.3%の差がある。）

（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査

小 中

小学校での英語教育導入効果について

暫定値

生徒質問調査の結果から、肯定的な回答の割合が高く、前回改訂時と比較して20%前後増加している。

Q 英語を学習していて、小学校での英語の授業が役に立ったと思うことがある（H25→R５）

中１

「ある」30.8%、「どちらかといえばある」29.3%

「ある」47.0%、「どちらかといえばある」30.3%

＋17.3ポイント

中２

「ある」21.6%、「どちらかといえばある」27.9%

「ある」37.2%、「どちらかといえばある」33.4%

＋21.1ポイント

中３

「ある」18.0%、「どちらかといえばある」25.3%

「ある」31.9%、「どちらかといえばある」32.0%

＋20.6ポイント

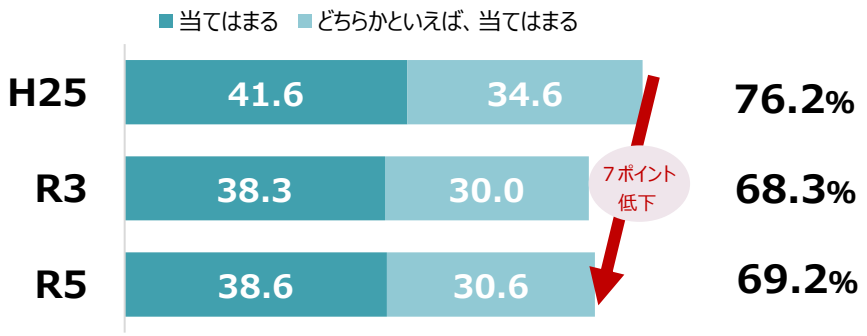
※肯定的な回答を求める際は、小数第２位以下も含めて計算をするため、それぞれの数値は一致しない場合がある。

（出典）令和５年度中学校学習指導要領実施状況調査　生徒質問調査

小学校

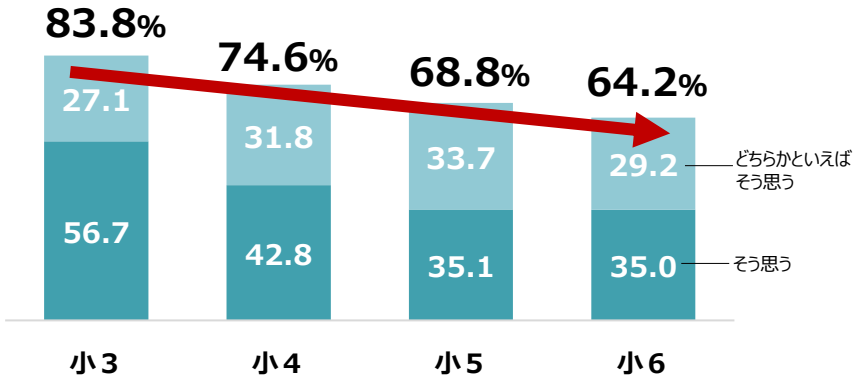
●英語の学習が「好き」の割合は高いが、H25→R5で７ポイント低下（学年が上がるほど低い傾向）
●英語を学ぶ意欲は小５にかけて低下するが小６で上昇（全学年で８割以上）
●授業の理解度への肯定的回答は全学年で６割超（小６がもっとも高い）

英語の学習（勉強）は好きですか（小６経年）



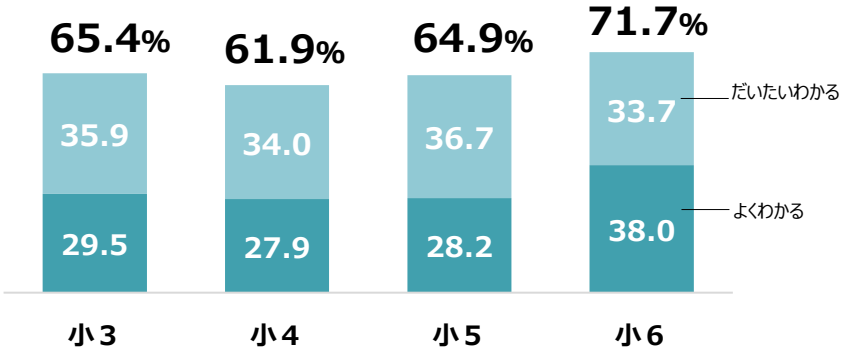
※H25は「英語の学習は好きですか」、R3、R5は「英語の勉強は好きですか」とたずねている。
（出典）全国学力・学習状況調査　悉皆調査

英語の学習が好きだ（学年別）



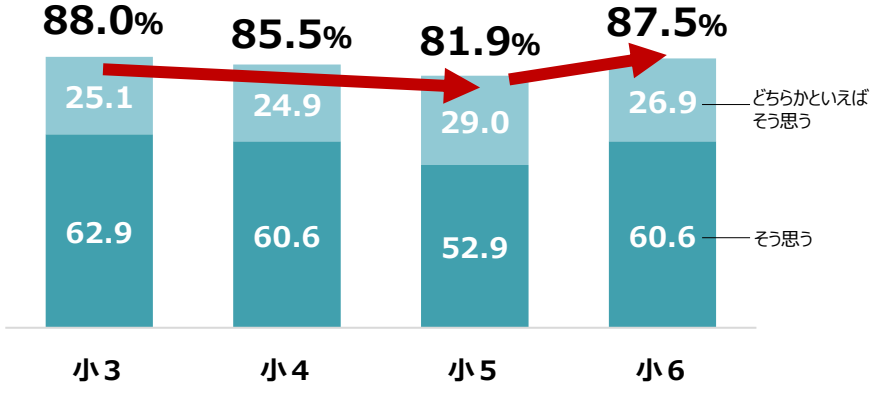
※小３～小５は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の４件法、小６は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思うわない」「わからない」の５件法でたずねている。
（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査　児童質問紙調査

英語の授業がどの程度わかりますか



（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査　児童質問紙調査

今後もっと、英語を聞いて相手の言いたいことがわかったり、英語で自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり、発表できるようになりたい



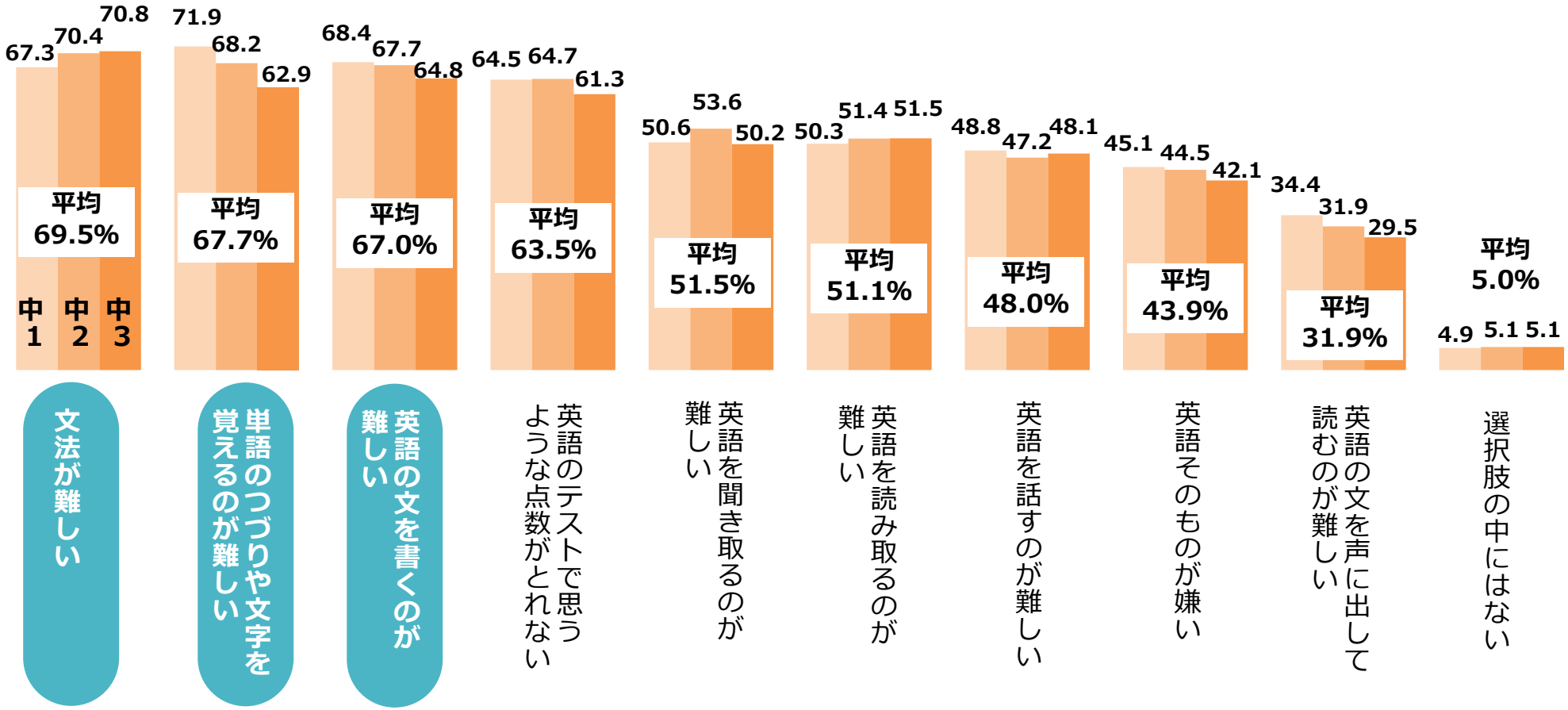
（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査　児童質問紙調査

中学校

「英語の学習が好きだ」に否定的な回答の理由は、「文法が難しい」「単語のつづりや文字を覚えるのが難しい」「英語の文を書くのが難しい」が上位

暫定値

「英語の学習が好きだ」に否定的な回答の理由



（出典）令和５年度中学校学習指導要領実施状況調査　生徒質問調査

中１　音声の認識及び音と文字の結びつきは、中１の生徒にとって難しい可能性

暫定値

- 中１の生徒が「書くこと」で間違った語彙に着目すると、CEFR A1レベルの語彙は112語、A2レベルの語彙は16語。
- 中３の生徒と比較すると、同じ語であっても多様な綴りの誤りが見られる。
- A1レベルであっても、中１の生徒にとって正しい音声の認識及び音と文字の結びつきに課題があると考えられる。

A1レベルの語彙の綴り間違いの例（中１）

beautiful (42)　※中３は９

beutiful (5), butiful (4), batiful (2), bautiful (2), beaucful (1), beauful (2), beautifull (2), beautifulu (1), beaututiful (1), befutiful (1), betfor (1), betiful (1), beutyfor (2), burdifor (1), buteful (2), butefull (1), beautihul (1), beateful (1), beuteful (1), bult (1), beutifre (1), biautiful (1), beautifull (1), bullu (1), butifur (1), beautchful (1), brutefor (1), dyutiful (1), datfll (1)　など

summer (35)

sumer (11), summar (4), sammer (2), sammr (2), somer (2), sormer (2), samar (1), samr (1), semmer (1), sma (1), smear (1), smeer (1), souma (1), sumre (1), sammar (1), sormore (1), sammre (1), sammar (1), sammr (1), sumamr (1), smer (1), smere (1), sommer (1), smr (1), sumaa (1), smar (1), samme (1)　など

flower (29)

frawar (3), flowars (2), frowor (2), fulwar (2), flow (1), flaw (1), flew (1), flor (1), flore (1), fluwes (1), fraw (1), frowe (1), fulawae (1), furower (1), frowar (1), furwar (1), furawe (1), flrow (1), furawa (1), forower (1), flowr (1), flwar (1), furaw (1), furawer (1), frowr (1), hulawer (1), friwer (1), fowers (1)　など

winter (29)

whinter (2), wintr (2), wintter (2), wentr (2), wantr (2), wemta (1), wentre (1), whiet (1), whiter (1), wiheter (1), wintre (1), winte (1), witer (1), wintr (1), wintew (1), witer (1), wintter (1)　など

pet (18)

pat (4), petto (3), bet (2), peet (2), peto (1), petot (1), peeto (1), pert (1), qet (1), peat (1)　など

spring (15)

supring (3), sprengs (2), sparing (1), sprng (1), sparing (1), supuring (1), sprint (1), spuring (1), spulint (1), spering (1), splng (1), sprink (1)　など

make (14)

meke (6), meik (3), maek (2), meak (1), meking (1), meak (1), meuk (1), meikes (1), maiku (1), meikingu (1), meikng (1)　など

very (11)　※中３は５

verey (2), verry (2), vere (2), veri (2), beley (1), bery (1), bele (1)

favorite (10)　※中３は６

farorite (2), fovoret (1), fvoret (1), favrit (1), favoret (1), fadort (1), fevorite (1), favorit (1), fevaret (1)　など

※産出語彙について、「書くこと」の問題における第１学年300名の記述を抽出。
※抽出したものを、New Word Level Checker（https://nwlc.pythonanywhere.com）によって分析。

（出典）令和５年度中学校学習指導要領実施状況調査ペーパーテスト調査の結果に基づき、作成。

中３

音と文字の結びつきは、中３の生徒でも難しい可能性

暫定値

- 中３の生徒が「書くこと」で間違った語彙に着目すると、CEFR A1レベルの語彙は250語、A2レベルの語彙は49語。
- A1レベルであっても、中３の生徒にとって音と文字とを結びつけることは難しい可能性。

A1レベルの語彙の綴り間違いの例（中３）

practice (24)
　　plactice, practis, practic, plactis, practce, plactise, preactice, practise, proctice, pracetic, practse, pracitce, practish, practhis, prectis, pratice, puactis, practece, puritact, practece, practing　など

because (15)
　　becouse, becous, becauce, becaus, becase, becose, becase, becuse　など

culture (10)
　　calture, culuture, caruture, culter, cultury, calchat, cluture, cltuare　など

beautiful (9)
　　butiful, bertifull, vutiful, beateful, beauful, buteful, beatiful, beutiful, buitufull

delicious (8)
　　dericious, delisio, derisas, delisious, deliciose, delishia, deilicous, delicaus

introduce (7)
　　intoroduce, introdeuce, introdce, intoroduse, intrduce, introde, introduse

baseball (6)
　　beasball, dasedall, baseboll, basedall　など

favorite (6)
　　favorit, favrit, faborit, feivert　など

very (5)
　　bery, veary, vere, bry　など

※産出語彙について、「書くこと」の問題における第３学年300名の記述を抽出。
※抽出したものを、New Word Level Checker（https://nwlc.pythonanywhere.com）によって分析。

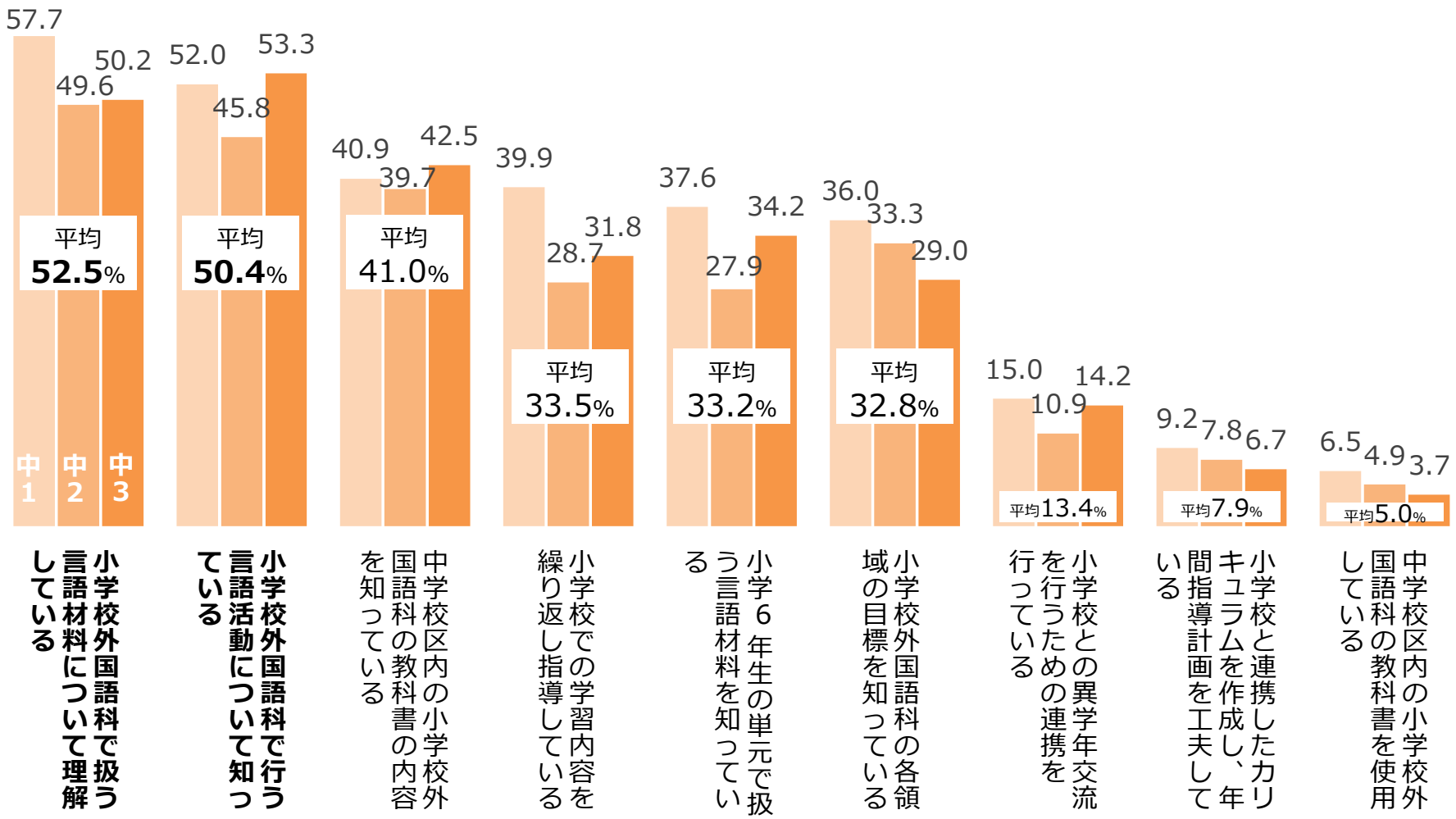
（出典）令和５年度中学校学習指導要領実施状況調査ペーパーテスト調査の結果に基づき、作成。

中学校

「小学校外国語科で扱う言語材料や言語活動について理解している」と回答した教師の割合の**平均は約50%に留まる**

暫定値

英語の授業では、小学校における外国語活動や外国語科を踏まえ、円滑な接続が図れるように指導を工夫している



（出典）令和5年度中学校学習指導要領実施状況調査 教師質問調査を基に、平均反応率が高い順に並び変えて作成。

小中連携に関する取組の好事例（訪問及びヒアリングから）

情報交換

【小中で、教科書やパフォーマンス動画を相互に見合う研修会を実施】

・教科書を見合い、どのような言語活動やパフォーマンステストを行うかのアイデアを小・中で交換。
・小６と中１の学年末のパフォーマンス動画を見合い、「中１の１年間で何ができるようになるか」という姿を具体的に確認。接続期で必要な指導が明確となり、小中ギャップ解消が期待。

交流

【中学校英語教師が小学校で乗入れ授業を実施】

・乗入れ授業を実施した教師が、児童の習熟状況や小学校での指導内容について、中学校英語教師に共有。小学校での指導内容の理解と小中接続への意識向上に貢献。

【小・中学生が英語で一対一のオンライン交流、相互に学校紹介】

・相手に伝わるよう、伝え方や内容の工夫について指導。小・中学生ともに、相手意識を持ってコミュニケーションを図ろうとする姿が見られた。

小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定

【小中一貫したカリキュラムとCAN-DOリストを研修会で活用】

・小中一貫したCAN-DOリストに基づき授業計画を策定。相互に公開授業、授業研究会を実施し、CAN-DOリストを通じて各学校種の到達目標を確認。

【小中での段階的な「読むこと」「書くこと」の指導】

・小学校では絵本等を用いて「聞くこと」から「読むこと」、「読むこと」から「書くこと」を段階的に指導。中学校でも音声・動画付きの多読を通して「聞くこと」「読むこと」から理解したことについて相手意識を持って「書くこと」を指導。

小中連携が進んでいる学校の言語活動の特徴

【言語活動を通した指導】

・子供が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような、興味・関心のあるテーマを設定。教師との自然なやり取りの継続から、子供の英語による発話を巧みに引き出していた。発話の様子を踏まえた語彙・表現の指導を行い、使える英語の習得を促進。

【教師とALTのティーム・ティーチング】

・子供一人一人のつまずきを把握した上で、個別に誤りの訂正と、全体へのフィードバックを行う。常に子供を励まし、子供が自信を持って英語を使用できる環境を作り出していた。

※「情報交換」「交流」「小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定」は、市区町村教育委員会が主導して実施。「小中連携が進んでいる学校の言語活動の特徴」は、各学校が実施。

※ R5全国学力・学習状況調査（中学校英語）の結果やR5英語教育実施状況調査の結果から、特色ある取組を行っていると思われる中学校14校、主にその学区内の小学校11校及び7つの教育委員会を訪問し、授業参観とヒアリング調査を実施。

（出典）令和6年度英語教育実施状況調査

英語教育実施状況調査等について、横浜国立大学 斉田智里研究室に委託して専門的な分析を実施。

小4

- 英語の学習が好きである児童ほど、授業を楽しいと感じている傾向がある
- 英語の学習が好きである児童ほど、そして、授業を楽しいと感じている児童ほど、先生や友達が話す英語を「聞く」ことが好きな傾向がある

児童の実態に応じた話題を設定し、児童が英語を聞くことが楽しい！と思えるような活動をすることが大事

質問の各項目間の相関係数

	英語の学習が好きだ	英語の授業は楽しい	英語の授業で、先生や友達が英語で考えや気持ちなどを話すのを聞くのが好きだ
英語の学習が好きだ	1	0.809	0.668
英語の授業は楽しい	0.809	1	0.643
英語の授業で、先生や友達が英語で考えや気持ちなどを話すのを聞くのが好きだ	0.668	0.643	1

※児童質問紙調査の結果から相関関係を分析。特に「英語の学習が好きだ」、「英語の授業は楽しい」、「英語の授業で、先生や友達が英語で考えや気持ちなどを話すのを聞くのが好きだ」の相関を図示
※相関係数は小数点第4位で四捨五入。
※他に比較的強い正の相関（r=0.6以上）があった項目は下記。
「英語の授業で、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合ったり、発表したりするのが好きだ」×「英語の授業で、先生や友達が英語で考えや気持ちなどを話すのを聞くのが好きだ」（r＝0.617）
「英語の授業で、自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合ったり、発表したりするのが好きだ」×「英語の授業で、自分のことについて考えや気持ちなどを英語で伝え合ったり発表したりしようとしている」（r＝0.732）
「今後もっと、英語を聞いて相手の言いたいことがわかったり、英語で自分の考えや気持ちなどを伝え合ったり発表できるようになりたい」×「今後もっと、英語を読んだり、英語で自分の考えや気持ちなどを書いたりできるようになりたい」（r＝0.682）

（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査　児童質問紙調査

小4

- 「聞く」活動を行っている教師ほど「話す」活動も行っている傾向がある
- 「話す」活動を行っている教師ほど、授業の中心が言語活動となるように単元計画を立てている傾向がある
- 授業の中心が言語活動となるよう単元計画を立てている教師ほど、「目的意識」「相手意識」を明確に設定し、児童と共有している傾向がある

第５、６学年の外国語科につながるよう、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識した活動を設定してはどうか

児童が互いの考えや気持ちなどを伝え合う目的や必然性のある場面を仕組むようにしてはどうか

質問の各項目間の相関係数

	英語の授業で、児童が指導者や友達の考えや気持ちなどを聞く活動をしている	英語の授業で、児童が互いの考えや気持ちなどを伝え合ったり発表したりする活動をしている	英語の授業で、単元終末の言語活動について、「目的意識」「相手意識」を明確に設定し、児童と共有している	単元を通じて、授業の中心が言語活動となるよう単元計画を立てている
英語の授業で、児童が指導者や友達の考えや気持ちなどを聞く活動をしている	1	**0.748**	0.580	0.599
英語の授業で、児童が互いの考えや気持ちなどを伝え合ったり発表したりする活動をしている	**0.748**	1	0.595	**0.613**
英語の授業で、単元終末の言語活動について、「目的意識」「相手意識」を明確に設定し、児童と共有している	0.580	0.595	1	**0.622**
単元を通じて、授業の中心が言語活動となるよう単元計画を立てている	0.599	**0.613**	**0.622**	1

※教師オンライン質問調査の結果から相関関係を分析。特に「英語の授業で、児童が指導者や友達の考えや気持ちなどを聞く活動をしている」、「英語の授業で、児童が互いの考えや気持ちなどを伝え合ったり発表したりする活動をしている」、「英語の授業で、単元終末の言語活動について、「目的意識」「相手意識」を明確に設定し、児童と共有している」、「単元を通じて、授業の中心が言語活動となるよう単元計画を立てている」の相関を図示。
※相関係数は小数点第4位で四捨五入。
※他に比較的強い正の相関（r=0.6以上）があった項目はない。

（出典）令和４年度小学校学習指導要領実施状況調査　教師オンライン質問調査

中学校

- 「聞くこと」「読むこと」において日常的な話題について必要な情報を捉えたり、大まかな内容（概要）を捉えたりすることは相当数の生徒ができている設問がある
- 一方、**「読むこと」において社会的な話題について要点を捉えることは課題がある**

暫定値

中２「聞くこと」

日常的な話題について話の概要を捉えることができるかをみる問題

授業で友達のスピーチを聞いて、全体の内容を捉えタイトルが何かを選ぶ問題

3 （放送問題）

英語の授業で、「My Favorite Things ～私のお気に入り～」を紹介するという活動をしています。あなたは、**友だちが全体として何を伝えようとしているのか**を聞き取り、スピーチのタイトルを**聞き取りシート**に記入します。今日の山野さんのスピーチを聞いて、★のところに記入するタイトルとして最も適切なものを次の１から４の中から１つ選びなさい。英文は２回繰り返して言います。(5

聞き取りシート

スピーチ発表会「My Favorite Things ～私のお気に入り～」聞き取りシート

学習日	発表者	スピーチにタイトルをつけよう	一言感想
2/3(月)	川田さん	サイクリングに熱中している理由	川田さんがサイク
2/4(火)	山野さん	★	

【スピーチの原稿】

Hi, everyone. Today I'm going to talk about my favorite things. Well, I like studying English. I'll tell you my reasons.
First, I like English songs. When I sing in English, I feel happy.
Second, I like using computers. A lot of information on the Internet is in English. I enjoy getting new information in English.
Finally, speaking English is really fun for me. When I talk with my friends in English, I learn a lot about them.
Thank you.

【選択式（CD冊子）の選択肢】

1 英語の勉強が好きな理由
2 英語の歌が好きな理由
3 コンピュータが好きな理由
4 友達との会話が好きな理由

通過率：75.5%

中２「読むこと」

社会的な話題について、まとまりのある文章を読んで、文章の要点を捉えることができるかをみる問題

ごみ問題に関する新聞記事を読んで、記事の内容に合う選択肢を選ぶ問題

9 カナダに留学をしているあなたは、新聞に中学生が投稿した記事を見つけました。この中学生が一番言いたいことは何ですか。最も適切なものを次の１から４の中から１つ選びなさい。(13

Trash Problem

Mary Smith

Trash is a big problem nowadays. On my way home, I see a lot of trash on the road. It's really sad. How can we improve this problem?

First, I think people should take their trash home. It is also a good idea to put more trash cans around the city. However, it costs money and some people still may throw trash on the road.

Second, I want more people to join volunteer activities to clean the city. I belong to a volunteer club. Last Sunday, I joined "Clean Up Day" in my city. We picked up various trash. For example, cans, papers, and bottles. After that, the streets were so clean!

Everyone can do something small for our city. Let's try together! If the city is clean, everyone can have a good life.

（注）nowadays：最近　cost：お金がかかる　throw：捨てる
belong to：所属している　various：様々な　can：缶　bottle：ビン
activity：活動　take action：行動を起こす

【選択肢】

1 最近ごみ問題が生じている。
2 一人一人がゴミを持ち帰るべきだ。
3 多くの人にゴミを拾う活動に参加してほしい。
4 みんなが町のために何か行動しよう。

通過率：42.9%

（出典）令和５年度中学校学習指導要領実施状況調査